

# おたる 西別院だより

## お盆号



小樽別院盆踊り(別院境内)

### お盆参詣

8月7日(月)より12日(土)の間でお盆参りに伺います。  
(あらかじめハガキにて、期日をお知らせいたします。)

### 納骨堂の読経

8月13日(日)より16日(水)の間、朝8時~夕方6時までにお参り下さい。

### 月忌参詣休止

8月7日(月)より、17日(木)まで、月忌参詣をお休みさせていただきます。

# 盂蘭盆会におもろう



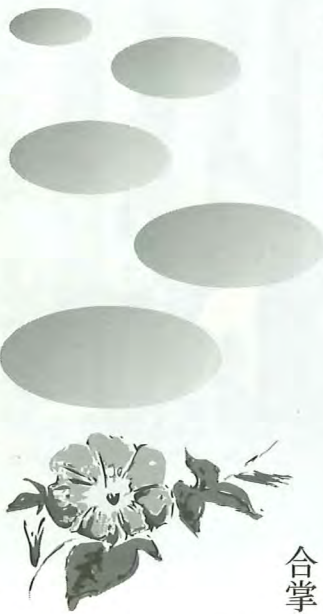
輪番 波多野 昭方

お盆の季節がまいりました。新千歳空港口ビーにも、大きなお土産の荷物を持った家族連れの溢れる姿が、テレビの画面を賑わせます。盂蘭盆会が正規の原語ですが、略してお盆と呼ばれるようになって久しい行事です。

二千五百有余年前、お釈迦様の弟子の一人、目連尊者の物語りが、盂蘭盆経に書かれています。母親が餓鬼道に落ち、地獄の苦しみを味わっている姿をみた目連は、釈尊に救済を求めたところ、「母を救うには一人の力ではできない。十方の衆僧の威神力を借りて、百日の供養をせよ」と諭され、朋輩にお願いし、実行した所、早速救われ、極苦を逃がれた故事によるものといわれています。

御先祖を偲び家族親族が集まって、全員が無事を喜び合い、御先祖の話を通じて、報恩感謝の念を新たにすると、日本古来の美しい習慣です。私達浄土真宗では、現今の環境破壊、若者の凶悪犯罪等の社会問題について、家庭・家族・自然環境・教育など、育(そだてる)を話し合い、心の時代といわれる二十一世紀へ、確実な歩みを発進させていきます。

お仏壇を荘厳し、お墓や納骨所のお花を替えたり、生前御先祖が嗜んだ品々を供えたり、仏様になられた御先祖に思いを寄せ、私も仏にさせていただけける身を話し合い、手を合わせ、心の通う実生活、今を生まれ、今を生きて、今を喜ぶ、身の幸せを此のお盆の行事と共に再確認したいものです。



合掌

3分間の心のともしび

**TEL 27-1616**

小樽別院テレホン法話

24時間

いつでもどうぞ



# 盂蘭盆会

●日 時●

8月15日(火)・16日(水)

午後1時30分

●場 所●

小樽別院本堂



# 別院フォトクラブ

降誕会  
編



今回の「お盆号」より別院諸行事の写真を掲載することになりました。次回もお楽しみに。

御葬儀 年中無休 24時間受付

## 有限会社 小樽永楽社

小樽市長橋4丁目2-23  
31-4949 (代)

仏壇は心のよりどころ...

まごころこめて  
ご奉仕いたします。



仏壇、仏具、お宮、神具、寺院荘厳仏具

仏壇・仏具の  
**善光堂**

小樽市花園2丁目5番5号  
佐々木仏壇店  
電話 (0134) 25-6105番

## ご案内

### お 晨 朝

毎日 午前6時30分

### 常 例 布 教

毎月7日～11日 午後1時30分  
13日～16日 午後1時30分

### 仏教青年会

毎月1回 午後7時30分

### 仏教婦人会

毎月27日 正午(おときあり)

### 仏教壮年会

毎月6日 午後7時

### おつとめしま専科!

毎月2回(火曜日) 午後2時

### ボーイスカウト

毎月1回(土曜日) 午後2時

### 日曜仏教講座

毎月1回(第3日曜日)  
午前9時30分

### 十 九 日 講

毎月19日 正午(おときあり)

### 各説教所の案内

- 奥沢説教所  
樹心会 5日 午後7時  
唯信講 10日 正午
- 若竹説教所  
彰心会 7日 午後7時
- 緑説教所  
無量講 9日 午後6時
- 新光説教所  
法友会 13日 午後6時

# カブスカウト 募 集!

何でも話しあえる友達をつくろう。

活 動/毎月1回 土曜日 午後2時～4時  
内 容/文化しせつの見学、お泊り会、運動会。  
小学校2年生から5年生の男子、女子を  
大募集!ぜひ連絡下さい。

TEL 22-0744 担当 温井、村田

# 仏教青年会 会員大募集!

● 活動内容/文化活動、ボランティア  
月1回例会(金曜日)  
各種レクリエーション(ボーリング、カラオケ、スキー等)  
10代、20代の男女を待っています。  
ぜひ気軽によってください。

連絡 TEL 22-0744 担当 日野、村田

# おつとめ しま専科!

只今、会員さん増殖中!!

伝染あるよ

対 象/どなたでもどうぞ。  
費 用/特に必要なし!  
日 時/月2回の火曜日午後2時  
お問い合わせ/今すぐ別院の磯村まで...

# 別院盆踊り

●日時 8月5日(土)・6日(日)  
午後7時～9時まで

●場所 本願寺小樽別院境内

お楽しみ  
抽選会有り!

※雨天の場合は中止となります。又、午後6時以降は  
境内への車の乗り入れをご遠慮下さい。



## お供えは何のため?

お盆からお彼岸にかけて、伝統的に  
にお墓参り(骨堂参り)がさかんに  
行われます。その際気になるのは、  
放置されたお供えでしょう。蠅が  
たかっていたり、なかには腐敗し  
て異臭を放っているものもありま  
す。むざんな情景です。

せっかく、家族や里帰りの人々  
がそろってお参りし、清掃してお  
参りしてきた後がこの有様では、  
まるで汚しに来たようなもので  
す。まさにこれは、供物ではなく、  
単なる食べ物を放置したすがたに  
ほかなりません。

供物というものは、仏堂内にお  
いて行われる法会の諸種の荘厳で  
あり、おつとめや、お参りのあい  
ださげられているものであつ  
て、それを終えたらお下げするの  
が当然の作法といえるのです。

実際問題として、ご家庭のお仏  
壇にお供えした果物から汁がたれ  
るようになるまで放つたらかしに  
しておくことはあり得ないし、お  
菓子にカビが生えるまで供えてお  
いたのでは、これはもう「荘厳」ど  
ころではないことになってしま  
います。

ところが、お墓参り(骨堂参り)  
に関するかぎり、自分の家でない  
という安心感も手伝ってか、お供  
えをそのままにして帰る人がすく  
なくないようです。

みなさんは、お供え物を、心情  
的に如来さまやご先祖に「食べてい  
ただく」つもりでお供えするのでし  
ょうが、はたして、如来さまやご先  
祖が、その供物を食べているのを見  
た人がいるのでしょうか。よく考え  
てみれば、それが「私たち自身が生  
きていく上で欠かせない物であり、  
その命の犠牲により、私の命として  
生かさせていただいていることに気  
付くはず。そうしたいのちの恵  
みに感謝し、われわれに尊い「いの  
ち」をつたえてくださった先祖への  
思慕を通して、お念仏をよるこばせ  
ていただくことが大切なのです。

どうかみなさん、お参りのときの  
供物は、決して粗末にせず、すぐに  
持ち帰って、おさがりとしてみんな  
でいただくようお願いいたします。

●お墓のお供えはそのままにせず、  
必ず持ち帰って、家族でおさがり  
としていただくようにします。

# 十人十声

## ●一日一日を大切に



武藤 二孝

私たちは時々、時間に對して、不満を漏らすことがあります。「一日の過ぎるのが早い」と。さらに一週間、一カ月、一年などに対しても同じことを感じたりします。

## ●二つの私



西川 達恵

私達は「自分のことは自分が一番よく分かってるから、人に自分のことを、とやかく言われたくない」と思うことがあります。この世界に私は一人しかおりませんが、三通りの私と考えられます。一つめは「自分が思っている私」二つめは「他の人が思っている私」三つめは「本当の私」です。一つめの私と、二つめの私では同じ私ですが、大変違った私の存在を知らされます。自分のことは自分が一番よく分かっていると思っておりますが、自分の思っている私は、良いところだけで、悪いところには気がついていないことが多くあるのではないのでしょうか。四十三歳の時、癌を告知され、四十七歳で往生された鈴木章子さんの随想を紹介します

「許す許さぬは外への視点 視点を内に転ずれば私も許されている」浄土真宗の教えにあり、おみのりに照らされて、三つめの「本当の私」が知らされ、私の周囲全てのものから許されて生かされていた私に気づかせていただきます。

考えられないと感じています。宮沢賢治の詩のように、「みんなが幸せにならなければ、ほんとうの幸せはない」ということもうなづけます。国も個人も「一人は万人のために、万人は一人のために」努力すべきである。人だけでなく、自然・社会と共生し、お念仏を喜べる人生を歩んでいただきたいと念願する次第です。

## ●浄土真宗のお内仏



村上 隆昌

先日、御門徒宅にお詣りに行った時に、お仏壇に亡くなった人の写真を入れているのを見ました。確かにお内仏には、親鸞聖人や蓮如上人の写真(ご影像)が入っています。

この地球が生まれて、海ができ、海からオゾンが生まれて、地球の上層にオゾン層ができて、太陽の紫外線がやわらげられ、海の中から生きものが地上に生い上がってきたのです。そしてやがて人間と多くの生きもののがいっしょに生きられるようになりました。その長い年月の過去未来の歴史が、今現在の私のいのちに凝縮されてあることを思います。浄土真宗のお内仏は、今、座って手を合わす私のいのちの、本来のすがたに出会う場です。私たちが身の亡き人の一枚の写真に面と向かうところから出発するかもしれません。東西南北上下十方のすべてのはたらき(無量寿如来)によって「みんな精いっぱい生きられる人だ」という願いを聞く場所がお内仏です。写真の向こう側に本来ある私の不可思議の「いのち」の尊さを知らさせていたいただきたいものです。

## ●あなたの運転マナーは…?



磯村 真一

「小樽は運転マナーが非常に悪い！」毎日車を運転して感じていたことですが、皆さんはどう思われるでしょうか。私は、譲り合いの気持ちで欠けていると思います。

小路から本線に入ろうとする時、本線の車は仲々私の車を入れてくれようとしなしいし逆に譲らなかつたら強引に割り込んだり、こちらを睨んだりする。せつかく道を譲っても、お礼の合図を出さない。もっとひどいのは、前を走行している車が、いきなりブレーキをかけて停止したかと思うとウィンカー(方向指示器)を出して停車の合図をする。広い道路でそれをされた場合、停車した車を回避することは出来ても、細い道でされた場合は逃げ道がありません。先づはウィンカー、次にブレーキ、最後に停車が鉄則でしょ！

特に北海道は事故が多いようですが、こういったマナーの悪さが事故につながるのです。そういう私自身も、最近マナーが悪くなったと反省させられます。急ぐ気持ちも分かりますが、ちょっとした譲り合いで気分が良くなるものです。お互い、マナーを守って気持ちよく運転しましょう。

## ●話すことと聞くこと



梶 純信

人間には口が1つ、耳が2つついています。口には2つのはたらきがあります。「たべる」と「話す」ことです。耳には「聞く」とい

はたらししかありません。ということ、人間は話すことより、2倍聞かなければならないのではないかと思います。

しかし、私たちは自分の考えを伝えるのに一生懸命で、「話す」ことばかりが中心になっていくような気がします。親鸞聖人は次のようにおっしゃっております。

「聞というのは衆生、仏願の生起本末を聞き疑心あることなし、これを聞くというなり」(教行信証)

「話す」ことより、まず「聞く」ことに重点をおく生活を心がけたいものです。

●お聖教

温井 卓生



私達は、大切な物であればあるほど、人の目につかないところに、しまっけてしまっています。

ひどい場合には、どこにしまったのか、わからなくなる時もあります。私達み教えを聞くものにとつて一番大切なものは、阿弥陀様のお言葉、また親鸞聖人のお言葉に出会うことができるお聖教です。今では、みんなが読みやすいようにと、字を大きくしたり、ルビをつけたり、また注釈をつけたお聖教も出ています。しかし、このように読みやすくなったお聖教が出て、しまい込んでいては、お聖教のつかう場がありません。蓮如上人は「聖教はよみやぶれ」といわれました。文字通り、読み破れるぐらいお聖教を聞くことが、お聖教を大切にすることなのです。まず、ご家庭の御文章箱のフタを開くところからでも、「聖教はよみやぶれ」をはじめてみてください。

●仏法は暇なときに聞くのか？

日野 尊行



浄土真宗では、私達の側に課せられた行はないといわれます。しかし聴聞の行を否定しては、浄土真宗は成立しません。一般に、仏法は暇があつて聞くように思われていますが、蓮如上人は暇をつくつて聞くよう勧められています。なぜなら私達は、明日があると思つていますが、その明日を保証してくれるものは何もないからです。しかも、その明日が必ずなくなることも知つているのです。この自覚の上になつと、名譽も地位も教養も財産も、何らこの私を支えてくれない。ただ裸一貫で生まれ、死んでゆくのです。この問題の答えを明らかにしたのが仏法であり、念仏の教えなのです。火山が噴火し、明日私の命が町とともに消えていくのを知つたなら、問題は今日に解決しようとするはずで、それを解決しようとしてもいい、又警告してくれているのに聞こうともしない。私達のおろかな姿が浮き彫りになつていくことでしょう。

●南無阿弥陀仏

村田 法道



阿弥陀様という仏様は、私たちに對して、自らのお名前を名乗つてよびかけられる仏様であります。

「阿弥陀」とは、「限りがない」「はかることができない」ですから「阿弥陀仏」とは、思慮分別でははかることのできない智慧と慈悲を持つている仏様であり、光といのちが限りがない仏様であります。「南無」とは、

おまかせするという意味で「南無阿弥陀仏」とは「私は光といのちに限りがない阿弥陀」といふ意味になります。さらに、「南無阿弥陀仏」は「私は阿弥陀様におまかせ」というだけでなく「まかせよ阿弥陀」という仏様から私への方向があるのです。阿弥陀様は、母親が慈愛の心を込めて、赤ん坊に呼びかけるように、「まかせよ」というよびかけがあるからこそ「阿弥陀におまかせする」ということが起るのです。阿弥陀様は、私達を迷い世界から救うために、常に南無阿弥陀仏と自らのお名前を名のり続けておられるのです。

●夏を乗りきる

相馬 早苗



今年もまた温度と湿度が上昇する季節の夏がやつてまいりました。夏になると食欲がなくなつたり、暑くて寝られない夜がづき寝不足になつたりと、色々な面から夏バテを招いてしまっています。暑くなると人の体は、汗をかくことで体温を調節しているので、体内の水分が失われます。ですからその分しっかりと水分を補給しなければなりません。だからといって水分の摂りすぎはいけません。胃液が薄くなり消化能力がおとろえてしまうからです。まして炭酸飲料やアルコールの摂りすぎはさらに胃腸に負担をかけてしまいます。この様なことから、食欲不振になり、栄養のバランスが悪くなつて夏バテになつてしまうのです。ですから暑い夏を乗りきるには、適切な水分補給、栄養のバランス、規則正しい生活の3つに注意することが大切なのです。

何はともあれ、今年の夏は去年の様に暑くならなければいいですね。

●一年を振り返つて

渡部 恵

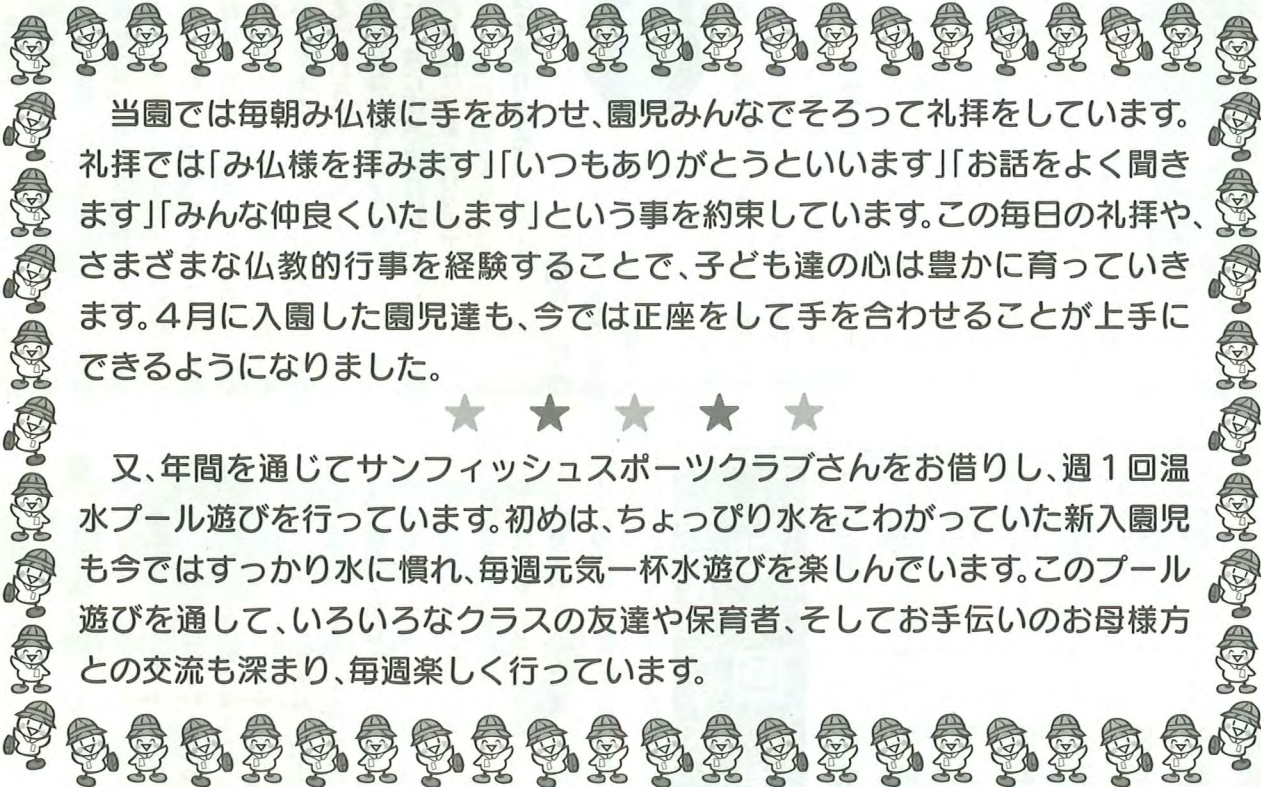


私が、別院に勤務させて頂いてから一年以上が経ちました。今振り返つてみるとこの一年は、多くの方との出会いがあり、沢山のことを学ばせて頂き、本当に充実した一年でした。日々、職員の皆様や周りの方々の助けがあつたからこそであり、自分一人で生きていくのではなく、生かされているということをととても実感致しました。

別院に勤務させて頂くこのご縁に感謝し、一日一日を大切に過ごさせて頂きたいと思つています。

2000年(平成12年)年 回 表

1	周忌	平成11年
3	回忌	平成10年
7	回忌	平成6年
13	回忌	昭和63年
17	回忌	昭和59年
25	回忌	昭和51年
33	回忌	昭和43年
50	回忌	昭和26年



当園では毎朝み仏様に手をあわせ、園児みんなでそろって礼拝をしています。礼拝では「み仏様を拝みます」「いつもありがとうございます」「お話をよく聞きます」「みんな仲良くいたします」という事を約束しています。この毎日の礼拝や、さまざまな仏教的行事を経験することで、子ども達の心は豊かに育っていきます。4月に入園した園児達も、今では正座をして手を合わせる事が上手にできるようになりました。



又、年間を通じてサンフィッシュスポーツクラブさんをお借りし、週1回温水プール遊びを行っています。初めは、ちょっぴり水をこわがっていた新入園児も今ではすっかり水に慣れ、毎週元気一杯水遊びを楽しんでいます。このプール遊びを通して、いろいろなクラスの友達や保育者、そしてお手伝いのお母様方との交流も深まり、毎週楽しく行っています。

● 小樽幼稚園 若松1丁目4番17号 TEL 0134-22-6536 ●

季刊 第五十三号 発行者 本願寺 小樽別院 発行人 波多野 昭方